市政に対する 一般質問

3月定例会の一般質問は3月5日・8日・9日・10日の4日間行われ、15人の議員が市政全般に対する諸問題について質問をしました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。なお、詳細については、5月下旬発行予定の会議録（市役所市政情報コーナー、図書館及び地域公民館、市議会ホームページなどで閲覧可能）をご覧ください。

交通

駅の安全対策について

東　美智子（公明党）

問 秩父鉄道を利用する高齢者の方より持田駅のバリアフリーを望む声がある。ホームへの階段は、手すりもなく滑り止めや色付けもなく大変危険と思われる。武州荒木駅も同じような個所が見られる。市は駅の安全対策について、鉄道会社に要望しているのか。要望しているのであれば、鉄道会社からどのような回答、対応があったのか。

答 鉄道利用の安全性を確保するため、毎年、県を通じて秩父鉄道及びＪＲ東日本に対し要望書を提出している。ご指摘の持田駅については、担当職員が現場の状況を確認し、秩父鉄道に申し伝え、前向きに改善を検討するとの回答をいただいた。武州荒木駅の件についても、安心・安全なまちづくりに向け、現地を確認し対応したい。

農業

観光と連携した農業政策を

中村　博行（協働ネットワーク）

問 日本文化は稲作文化であり、日本人の心のふるさとは「農」である。農業は本来もっている環境保全機能をはじめ、教育的機能、社会的機能などを有し多面的に見直されている。本市の農地に占める水稲作付面積は２２６０ｈａと埼玉県内では２位である。今後観光都市行田として、農業政策と観光分野の連携・育成をどう図っていくのか。

答 現在、都内観光会社へ田んぼアート事業での田植え体験を日帰りバスツアーに組み入れてもらえるよう計画している。このように、観光の観点から本市の農業を考えた場合、生産者をはじめ農産物の販売事業者、流通加工業者、観光業者、行政関係機関等の連携により、様々な観光資源を活用した情報発信が重要であると考えている。

消防

救急搬送の問題点

吉田　幸一（新政策研究会）

問 不慮の事故や急病の際には救急車にて病院搬送の手続きがとられるが、市民からは救急車到着後、搬送先病院の手配までに多くの時間が経過しているとの声が上がっている。時間を要する原因は何か。また、搬送を担う消防機関と医療機関の連携を強化するための情報交換は行われているのか。

答 従来、救急業務は急病人や負傷者を現場から医療機関まで速やかに搬送することを目的としていた。近年は救急の現場到着時に傷病者の苦痛軽減や症状の悪化防止を図るため車内で観察や応急処置を行っている。併せて医療機関収容の許可を得るためのコンタクトを行い、その後に搬送することで救命率の向上を図っている。また、情報交換については、病院等での研修を通じ綿密な連携を図っている。

シルバー人材センター

望ましい市との関係は

松本　安夫（黎明21）

問 市とシルバー人材センターの関係は、必ずしも良好とはいい難い状況であり、むしろ対立関係といっても言い過ぎではない。私は、この状況を危惧しており、市長は、市とシルバー人材センターとの望ましい関係をどのようなものと考えるか。

答 本市は、今後急速に高齢化社会を迎えることになることから、高齢者対策に力を入れているところである。シルバー人材センターの果たす役割は益々重要になってくる。シルバー人材センターには市民の貴重な税金が補助されていることから、市との関係が良好とはいえない現在の状況を危惧している。市との望ましい関係について、シルバー人材センターには、市との情報を共有し、信頼関係を築いてもらいたい。

まちづくり

忍城周辺整備事業の推進を

新井　孝義（新緑会）

問 平成16年度に策定された忍城周辺整備基本計画は、その後、どのように事業が検討されてきたのか。この事業は本市の将来の発展の夢と特徴を大きく引き出せる事業と捉えることができ、観光振興により、まちの活性化を図ろうとしている中、事業を推進すべきと考えるがどうか。

答 国庫補助事業の「まちづくり交付金」を活用しながら旧体育館跡地に駐車場や多目的広場の整備を行い、自動車利用者や観光客の利便性の向上を図ったところである。また、基本計画の重点整備課題である国道１２５号の危険箇所の解消については、平成22年度の県予算編成に対し歩道整備を要望し、さらに知事及び県議会議長への要望活動を行なった。当面は本路線の整備手法を県とともに検討したい。